

特集「デジタル図書館」の編集にあたって

田畑 孝一† 杉本 重雄† 武田 浩一†† 平賀 譲†

大人も子ども、個人も組織も、それぞれの考えや思いを机上のパソコンを用いて出版でき、それを世界中の誰もがネットワークを介し自分のパソコンで直ちに読むことができるようになってきた。デジタル技術による新しい社会文化の始まりである。

人類における互いの共通理解にこれまでに貢献してきた技術として、印刷技術と放送技術の2つがあげられる。印刷技術の発明による出版文化は紙媒体を介した出版と流通による文化の担い手である。放送技術の発展によるテレビ文化は電波媒体を介したマスコミによる文化の担い手である。いずれも情報の大衆伝達により社会構造の変革に大きく関与してきたが、情報の発信源は権威や資金をもつ一部の人からといっても過言ではない。ネットワーク媒体を介した新しいデジタル技術は情報の発信源そのものを大衆化することによって人類の共通理解に貢献し、これまでにない社会文化の創成が行われるであろう。

このような新技術のインパクトによって、紙媒体を中心とした従来の図書館に対し、ネットワーク媒体を介した新しいデジタル図書館(DL)が出現してくるのは必然である。本特集では、DLとは何か、その技術、国内外の取り組み、社会制度との関連について計9編で論じている。

第1編は総論で、DLの定義、社会的意義、DLへの期待について述べている。第2編はDLをいくつかのタイプに分け、その実現にとって重要な技術要素について論じている。第3編は文部省学術情報センターのDLプロジェクトで、学会の雑誌記事や学術論文の全文をネットワークを介して提供するプロジェクトである。すでに国内

22の学会から参加申し込みを得ており、計44誌の内容を1997年度から提供する予定となっている。第4編は国立国会図書館の関西館(仮称)に関するもので、その事業化が1995年度に認められ、建設の準備が開始されている。この関西館に不可欠と考えられるDL化の事業の紹介。第5編は通商産業省のDLへの取り組みの紹介である。1993年度補正予算に始まり、1995年度から5年間の事業である。国立国会図書館と協力し、すでに同図書館所蔵の1000万ページを電子化している。第6編は米国NSF助成のDLプロジェクトの1つであるカーネギーメロン大学のデジタルビデオライブラリプロジェクトである(1994年9月から4年間助成)。ビデオの画像および音声の自動解析を行い、その内容の情報検索を可能にする。第7編はミシガン大学がすでに行ったDL先取り研究に基づき、情報学部の新設やMedia Unionという大規模設備の建設など大学あげでのDLへの取り組み、およびNSF助成のDLプロジェクトの紹介である。第8編はDLの発展にとって解決すべき著作権の課題を論じている。ネットワークを介して電子的に情報の提供が行われるDLでは現行の著作権制度では想定し得なかった状況が起こりつつある。第9編は大学図書館運営におけるこれまでのオンラインサービスの経緯を振り返りながら、これからのデジタル図書館サービスの見通しについて論じている。

なお、本特集は図書館情報大学で1994年8月から年3回開催されている「デジタル図書館ワークショップ」および同大学で1995年8月に開催された「デジタル図書館国際シンポジウム1995」での論議がそのベースとなっている。

(平成8年5月13日)

† 図書館情報大学
†† 日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所